

## 第八回留学報告書

2024年7月

若原征哉

2020年秋から FOS 奨学生として、アメリカ合衆国ミネソタ州にあるミネソタ大学にて Land and Atmospheric Science program に参加し、精密農業を専攻しています。

### 1. 学生生活

博士課程生活も 4 年目の終わりが近づいてきました。直近の課題は論文の執筆・出版です。現在、論文#1 と#2 を同時進行で進めています。指導教員にも時折くぎを刺されるように、一般的にみると、かなり遅めの進捗だと思います。これは私の能力不足が大きな一因ですが、学部時代に研究をする機会がなかったことや、私が今の研究室に入ってからこれまでの研究室の環境整備不足にも一因があるとして、少し現実逃避しています。取り敢えずは、今月中に論文 #1 を、10 月末ごろまでに論文#2 を終わらせて、論文#3 に片足を突っ込んだ状況で 2024 年を終えられるように頑張っています。

これまでの留学報告書には書いたことがありませんが、私の指導教員は分野で一流の研究者ではあるものの、意思疎通をあまり得意としない人です。ここまで 4 年間指導していただきましたが、最近になってやっとじっくりとくる意思疎通の方法を見つけることが出来ました。つい先ほど、「遅めの進捗について時折くぎを刺される」と書きましたが、ここ半年ほどの関係は特に良好だと思います（それまでも、関係は上々くらいだったと思いますが...）。私は、博士課程在学中ながら、大学でサッカーをしたり、民間団体にサッカーを教えたり、子供を育てたりと、研究超一筋な指導教官からするとブレてると思われる側面も多いと思います。ただ、自分なりに最も充実した幸せな日々を過ごせているので、この調子で残り 1 年ほどで卒業できるように頑張ります。

ここ半年ほどは、卒業後の進路開拓のために民間企業の方々とのネットワーキングを少しずつ進めています。これまで、4 人ほどお会いする機会がありました。（農学分野の）博士号取得者が民間企業で働くために必要なことを聞いていますが、皆さん口をそろえてチームワークやコミュニケーションの大切さを強調されます。もちろん、博士号取得者は高い専門性があることを前提としての話ですが、上記のようなソフトスキルの部分は、サッカーをしたり教えたりしながら、アメリカ向けにキャリアブレーションできてきていると思います。これからも、論文執筆・出版の傍ら、博士課程修了まで継続してネットワーキングをしていきたいと思っています。

## 2. 私生活

娘が5か月になりました。4か月検診の時点で、体重は上位30%、身長は上位5%とすくすく育ってくれています。娘がとてもお利口さんなのと、妻の育児指導のおかげで、これまでの育児は予想以上に順調に進んでいます。無事に日本国籍の留保や戸籍登録、パスポートの取得なども済みました。娘が、日本文化に不自由なく触れることが出来るように、日英バイリンガル教育をしたいと思っています。アメリカで育つことになるので、日本語教育が課題になります。2歳になれば、土曜日に現地の日本語学校へ通うことが出来ますが、そのためには一定の日本語の能力が必要らしいです。1親1言語という決まりを作って、私は娘には日本語で話しかけています。ただ、妻がアメリカ人ということもあり、渡米してからは、両親と電話するとき以外は英語しか話さない生活をしてきました。あと、飼い犬にも英語で話しかけるので、ついつい娘にも英語で話しかけていもう自分を律しながら、育児をしています。英語中心になって日本語を少し蔑ろにしていた私にとっても、自分の日本語を見直すいい機会になっています。

つい先日、日本の家族が娘に会うためミネソタを訪問してくれました。指導教員から一週間の休暇をもらい、家族との再会を楽しみました。両親と、兄夫婦が来てくれましたが、娘（と飼い犬）は皆から可愛がってもらって嬉しそうにしていました。アメリカで永住権を取ったので、向こう30年ほどはアメリカで暮らしていこうと思っています。もちろん、家族がアメリカへ来ることで、日本とは違う文化を楽しむことが出来るのは利点ですが、日本の家族と会える機会が少ないのは寂しいです。特に、両親が娘と会える機会が限られてしまうことがとても残念です。今後、両親が数か月の長期で滞在し、娘とより長い時間を過ごすことが出来るように、いろいろと策を模索していきたいと考えています。私たち一家も、年に一度は日本へ帰国して、娘が家族や親戚と触れ合ったり、日本文化に触れることが出来るようにしたいです。

North Suburban Soccer Association という民間団体でサッカーを教え始めて1年になります。友人からお願いされて始めましたが、アメリカ（のアカデミアの外）でお給料を頂きながらお仕事をする大変貴重な機会になっています。サッカーの技術的な側面の指導だけでなく、団体管理者やプレーヤーとその家族とのコミュニケーションを通じてアメリカ社会で働く経験を得られています。卒業までのもう一年間継続してコーチとして働く予定です。並行して、大学でのサッカーも続けています。秋からの大学シーズンについては、サッカー遠征と娘の育児との兼ね合いをもう少し考えなければいけないので未定です。ただ、これまでサッカーを通じてとても幅広い人々と関わることが出来ているので、体が動くうちはサッカーを続けたいです。

